



昭和49年度

# 研究会誌

文科体育系

第1号

八戸工業大学  
一般教育部

昭和四十九年度

# 研究会誌

文科体育系

八戸工業大学一般教育部

\*\*\*\*\*

# 目 次

\*\*\*\*\*

ページ

複合詞の考察 ----- 大 木 実 (1)

Felix Holt, the Radical 試論 ----- 川 上 美津子 (25)

ハムレットの第弐幕弐場における独白に就いて -----

----- 百 岡 胤 正 (43)

本学学生の体力測定報告 (その1) ----- 体育研究室 (62)

勝村 靖夫

和田 敬世

大塚 哲

\*\*\*\*\*

## 卷 頭 言

沢 口 剛 雄

およそ學問に従事するものは、研究することが何より肝腎であることは、今更いうまでもない。それとともに研究成果を発表することも研究者に課せられた当然の責務であると考える。

「腹に萬巻の書を蔵す」

といったところで、成果を発表しなければ、どのような學問を理解し、どのように体系づけているのか、他の人にはわからない。

研究成果を発表することは、自己の研究課程を纏めるだけでなく、それをふまえて更に進歩を図る階梯となる。そしてやむことのない努力の集積によって、研究の完成をなすべきであらう。「腹中有萬巻書」の人も、よくその成果を発表して、學界に寄与すべき責任があると思う。

學問の世界においては、独よがりには許されるべきではない。

我が八戸工業大学の一般教育部の専任の方々は、人文系といい、自然学といい、それぞれ研究心の旺盛なことについては、従来敬服してきたところであるが、このたび人文系も自然系も研究成果を発表する機関を持つことになったことは、同慶の至りに堪えない。それぞれの研究業績の積み重ねの結果、将来、大学紀要の実現の際には、自然系からも人文系からも優秀な研究論文が、陸續として提出されて、大学紀要の声価が名実ともに挙がることを期待するとともに、若い研究者は、それらの業績を纏めることによって学位を得られるように、また年輩の方々には従来の研究を集大成してライフワークをなし遂げられるように祈ってやまない。

ここに一般教育部の人文社会語学体育系の機関誌の創刊号の出版を記念して、心からの祝意を述べ、将来の発展を祈ってやまない。

昭和乙卯節分の日、是川の宿舎において

目

次

業平説話をめぐって

竹園洋子 (1)

ページ

□□□□□□□□

## 編集後記

□□□□□□□□□□

のびのびになっておりました「一般教育部文科・体育系研究会会誌」の第一号をお手許にお届けできるとになりました。編集委員の不幸から、予定よりだいぶ遅くなりましたことをおわび申し上げます。

昨年九月、私達が日頃研究していることや考えていることを、理科系と、一般教育部の文科・体育系とで、それぞれまとめてみようという声がおこりました。そして文科・体育系では、私達が編集委員ということになり、仕事にとりかかりましたところ、お忙しい中を、多数ご寄稿いただきました。ありがとうございます。なにぶんにも不慣れでありますため、皆さまのお心にそわないところも多々あることと思いますが、今後の足掛りにでもなれば幸いに存じます。

第二号からの一層の発展を期待いたします。

昭和五十年二月

編集委員

内 川 健 吾  
竹 園 洋 子